ゼネラリストＶＳスペシャリスト；どちらを目指すべき？

結論から申し上げますと、スペシャリストを目指すべきです。

スペシャリストの定義は、一つの分野に詳しい人。狭く深い知識を持つ例えば、数学者やスポーツ選手と言うような一芸に秀でている人間。

その反面、ゼネラリストの定義は、複数の分野にそれなりの知識を持つ人。広く浅い知識を持つ例えば、多様なプログラミング言語を浅く学んでいるいるプログラマーやスポーツで幾つものポジションをこなせるユーティリティプレイヤーと言うような、器用貧乏。

今後の世の中、ジェネラリスト殺しの機械化と専門家への外注によって、特定の分野に秀でているスペシャリストに富が流れやすくなるのは言わずもがな。だからこそ、スペシャリストを目指すべきと言う以外、議論の余地は無い。

さらに深堀して、究極は世界一の投資家ウォ―レン・バフェット氏や投手と野手の二刀流、大谷翔平選手のように、複数の分野のスペシャリストになる事ですが、それを成し得る事が出来るのは天賦の才をもったごく一握りの天才達、多くの凡人には成し得ない快挙。

ゼネラリストＶＳスペシャリスト議論で必ず挙がるのが、「両方になれば良いのでは？」と言う愚問…に思える発言ですが、物事を選択する際に、「これかこれ」では無くて「これとこれ」と言うように、両方選んでも良いと言う考え方は非常に大事。何故なら、選択肢が広がると共に、両方選んだからこそ得られる得がもちろん、ある。

「あなたが落としたのは、金の斧ですか？銀の斧ですか？」「両方です」

ゼネラリストでありスペシャリストであると言うのは、要するに一つの分野に特化しながらも、他の分野にそれなりの知識があると言う状態ですが、これは努力次第で凡人でも成し得る偉業。

そして何よりも、多様な分野に知識があれば、スペシャリストである分野にもその知識が活きてくるのです。

スティーブ・ジョブズ氏がAppleを成し得た理由。それは、パソコンだけのスペシャリストでは無くて、書道学と言うデザイン系の知識を持っていたから。書道学で学んだデザインと言う知識をパソコンに応用した。だからこそ、美しいデザインのパソコンが生まれた。

と言う事で、優先順位はスペシャリストになる事。スペシャリストになりながらも、ジェネラリストのように他の分野の知識も付ければさらに良い。

異論は認めません。